

実施計画書

1. プロジェクト名 学校企画

2. 企画テーマ名称

- (主題) IT時代を見据えた児童一人一人のためのインタ - ネット活用の実践研究
(副題) 地域と学校の融合のもとで児童の課題解決のためのインタ - ネットを利用した共同学校の運営

3. 企画のねらい

<企画の目的>

- (a)豆についての学習を主軸に据えて、日本国内の複数学校や海外日本人学校などと協力を得ながら、学習を深めさせる。
- (b)課題解決学習を行い、積極的に地域の人材「地域の先生」を学校に招き、児童の追究について専門的分野の指導をしていただく。
- (c)インタ - ネットや電話回線などを利用しながら、児童の積極的な情報メディアの活用や他の学校との情報の交換を行わせる。
- (d)自分たちの地域と他地域の異なる点や共通する点に目を向けさせながら、国際理解の素地を育てていく。

<研究の背景>

本校ではこれまで「そばウガリプロジェクト」をはじめとする遠隔地共同交流学习を展開してきた。インタ - ネットを利用した学校間交流は日常のおこなわれるようになってきたが、児童が交流学校の児童の名前を互いに呼び合うまでの親密な交流にはいたってはいない。そこで本研究では、日本国内の複数学校や海外日本人学校などとの交流活動を足がかりにしてこれまで以上の交流学习に発展させ、その成果を Web 上に公開していく。

<企画実践の必要性、新規性、汎用性、波及効果>

本プロジェクトを実践していくことによって以下の点が明らかになってくる。

情報教育の視点から

- ・児童の情報機器の活用はもとより、情報の選択や利用についての学習が深まり、将来のIT時代に生きる人間としての資質形成に役立つ。

- ・ Web 上での共同の学校"Beans School (仮称)"に児童一人一人が参加することにより、これまで以上のインタ - ネット活用を促進しながら、自校他校の枠を超えた共同学習の実践が可能になる。

国際理解教育の視点から

- ・ 国内の異なる地域や海外に関する文化を、児童が比較しながら、体験を通して相互理解を深めることができる。

環境教育の観点から

- ・ 観察活動などを通して身の回りの環境について理解していく。

総合的学習実践の観点から

- ・ 児童の希望を重視することで学習の意欲が喚起され、インタ - ネットを活用することで他校の児童との交流から視野が広がる。学習内容がちがっても共同の作業の場をつくることで、いつでもどこもだれでもできる総合的学習のスタイルを提案することができる。

< 企画の成果目標 >

本研究では、日本国内の複数学校や海外日本人学校などと協力してインタ - ネット上に共同で一つの学校をつくることを目的の一つとする。最初の段階では参加学校ごとに各児童一人一人の特技など紹介するページを立ち上げる。それをきっかけにしながらメ - リングリストを活用し、一人一人の交流に発展させていく。その過程でインタ - ネット上でのルールなどを学ばせていく。参加学校ごとの課題に関わる実物（鳥海小は豆に関わるもの）などを送りあいながらさらなる交流を深めていく。最終的には参加学校の枠を取り払い異なる学校の児童で構成する小集団の課題別学級などに変えていく。児童一人一人の学習成果を共有財産とするためにして"Beans School (仮称)"として Web 上で公開しながら互いの学びの場としていく。

4 . 企画の概要

(1)対象 小学校5・6年(鳥海小学校)

他校については小学校5年および6年生(学校による)

(2)実施内容

- 1 電子掲示板やメ - リングリストで参加校を募る。(教師側で)
- 2 各校で活動の目的を明確にする。(教師間の話し合いで)

- 3 児童の手で活動呼びかける。
- 4 各校の希望や実態を理解しながら、具体的な活動を児童が決める。
- 5 参加各校の一人一人の児童の自己紹介を作り、配布する。同時にインタ - ネット上に紹介する。(個人情報に配慮する)
- 6 各紹介をもとに、メ - ルなどをつかって情報交換を行う。
- 7 個々の児童の希望を生かし、作物を栽培したり、地域を調べたりする活動を行う。
- 8 作物栽培過程などの中での疑問や考えを掲示板や電子メ - ルを利用して情報を交換する。
- 9 それぞれの児童のこだわりごとに共同研究を行う。結果はホ - ムペ - ジとして順次公開していく。それらを共同の学校(仮称)をつくる。
- 10 児童の資料などを集約してCD - ROMなどでまとめをつくる。

5 . 平成 1 3 年 6 月現在の活動状況

(1)実施体制

鳥海小学校では教務主任と5・6年担任で児童の活動を支援していく。また、各学年担任は地域人材との交流などの点で5・6年の学習活動を応援していく。児童との話し合いや活動に関しては担任が、機器の選択や活用は教務が担当する。

ほか協力校として、長岡市立表町小学校(6年生)、加茂市立加茂南小学校(5年生)、ジャカルタ日本人学校(5年生)が協力を行う。

(2)実施スケジュール(教師側の見通し)

- | | |
|--|---------|
| 1 電子掲示板やメ - リングリストで参加校を募る。(教師側で) | 4月(済み) |
| 2 各校で活動の目的を明確にする。(教師間の話し合いで) | 4月(済み) |
| 3 児童の手で活動呼びかける。(自己紹介ポスタ - づくり) | 5月(済み) |
| 4 各校の希望や実態を理解しながら、具体的な活動を児童が決める。 | 5月(済み) |
| 5 作物を栽培したり、地域を調べたりする活動を行う。 | 6月(進行中) |
| 6 食物などの栽培を通した各自の学習のまとめを行う。 | 9月 |
| 7 掲示板や電子メ - ルで情報を交換する。 | 5月 |
| 8 各学校の活動に関わる物を送り合い、交流を深める。 | 9月 |
| 9 共同の学校"Beans School(仮称)"としてWeb上に公開する。 | 9月 |
| 10 児童の資料などを集約してCD - ROMなどに共同の作品をつくる。 | 12月 |

(3)授業計画(抜粋) <教科および総合的な学習の時間など>

第5・6学年 Beans Club 活動 <60 時間>

(児童の希望を生かした活動計画)

1、学習のねらい

豆をテーマに、疑問や課題を見つけ、意欲的に調べ、根気強く追求できる。

豆を通して、地域の方や他校児童等との交流を深め、お互いの理解を深めることができる

豆を切り口として地域の課題や日本の食の問題などにも気づくことが出来る。

パソコンなどの情報機器に慣れ親しみ、情報収集や情報活用に活用することができる。

2、学習の計画

4月 学習の計画をたてる

活動名の決定「ビーンズクラブ」

5月 豆について調べる

豆を手にいれよう 豆を植えよう・育てよう

6月 豆の観察 畑の手入れをしよう

交流校との自己紹介

7月 地域の先生から豆作りについて学ぶ

地域の先生から豆料理について学ぶ

8月 豆の栽培

9月 交流校との意見交換・中間発表

豆の収穫

活動の中から個人課題を設定する

10月 豆料理を作る(豆腐・味噌・和え物等)

11月 他校との交流を深める。

12月 個人課題のまとめを行う。

1月 他校と成果発表会を開く。

2月 Web上にまとめたものをふりかえる。

3月 学習のまとめCDの作成。

(なお、児童の活動そのものは"Beans Club"と呼ぶことにする。)

(4)実践状況紹介のURL

山辺町立鳥海小学校での平成13年度の活動

<http://toki.ed.niigata-u.ac.jp/~tokairin/beans/index.htm>

過去のEスクエア学校企画などに採択された活動

<http://www.kome100.ne.jp/omotemachi-es/h13/cec/>